

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572609105		
法人名	有限会社 福寿		
事業所名	グループホーム福寿草 (ことぶき館)		
所在地	大仙市福田字川原道下55-1		
自己評価作成日	平成26年10月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成26年11月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・スローガンの「ありがとう、たった一言、大きな愛」の気持ちを大切に、入居者様それぞれの思いに添った支援ができるようにしている。職員はカンファレンス時や気づきがある毎に話し合い、施設内外の研修に参加して知識や技術を得て、より良いケアができるように努めている。家庭的で伸び伸びと張り合いを持って暮らせるように環境を整え、関わっている。  
 ・ご家族様には毎月交換ノートや写真、ホームだよりなどを送り施設での様子を伝えている。ご家族様は面会に来てくださり、外出や外泊の機会を持っていただいている。ご家族様より行事へ参加していただき共有できる時間を持つことができ、ご家族様より介護に対しての要望や意見を伺い、介護計画に反映させている。  
 ・入居者様のご家族様がボランティアで「おはなしコンサート」を行ってくださっており、地域の小学生と一緒に楽しみたいと招待して行う予定を立てている。また、地域の自治会長に認知症サポーター養成講座開催の働きかけをしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

縫製工場を改築したホームとのことで、共用空間であるホールや廊下、食堂がうらやましい程に実に広い。特に多目的ホールについては、ボランティアによる演芸発表等があっても余裕のスペースが十分に確保できる程である。避難訓練に地域の消防団が10名以上参加してくれている。防災士である代表取締役が、参加した消防団員に対して、自ら車椅子の介助方法を伝授する等、ホーム側から消防団に対して災害時に協力できるよう尽力している。法人を挙げての家族も大勢参加する敬老会、職員旅行等、親睦の大切さを重要視している。そのためか、職員の表情に穏やかさや優しさを感じられる。ホームの運営に関する要望や意見も率直に出し合える環境にあることが感じられた。「職員が明るく、優しく声掛けし、よく気遣いをしてくれ、何より本人が楽しそうで、面会に行くと楽しい。」と、家族から好評のホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様が家庭的な雰囲気の中で、健康に生き活きと楽しく生活ができるように、理念を見える所に掲げて、いつでも確認し共有している。グループホーム独自の事業計画を立てて、実行していけるように全職員で取り組んでいる。「ありがとう、たったひと言、大きな愛」をスローガンに掲げ、感謝の気持ちを伝えている。	法人の理念を受けてのグループホーム福寿草の5項目の運営理念が、ホール入口の見やすい位置に掲示されている。年度毎の事業計画の巻頭には法人とホームそれぞれの理念を基に4項目の指針が確認できる。ホーム職員の思いを集約した誰にでもわかり易いスローガン(モットー)を共有し、日々の実践につなげている。	開設以来10年以上が経過しているの で、理念もしくは運営理念について、再確認する機会を設けることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の床屋を利用して、出かけて行ったり、事業所に来てもらったりしている。地域の公民館まつりに作品を出品し、当日出かけている。地域の小学校の学習発表会予行に招待され鑑賞に行き、地域の公民館で開催される民俗芸能フェスティバルにも観賞に出掛けている。事業所の近くの畑を地域の方から借りて、畑作業に行った時に地域の方と行き会い声を掛けていただいている。	地域住民より借り受けたホームに隣接している畑は、年間をとおして様々な野菜を育てるには十分過ぎる広さである。利用者と共に収穫した野菜は、ホームで消費する他、近隣におすそ分けしている。お礼に他の作物等をいただいたりと、地域住民との交流にも一役かっている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議に地域の民生委員・自治会長・郵便局長・ご家族様が出席くださり、事業所の活動や様子を報告して、質問や意見をいただいている。自治会長を通じて事業所のホームだよりを地域の方々に配り、また、認知症サポーター養成講座開催の働きかけをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加している郵便局長が、法人で合同で行った敬老会に参加して、行事活動を感じていただき、「ボランティアを行ってくれた高校生の秋田民謡に合わせての昔の農作業の様子は素晴らしく、職員の皆さんの踊りも何時練習したのかと思うほどです」と話してくださいました。会議は事業所のホールで行い、日常の様子を感じたり、貼り絵などの作品を観ていただいている。	前回の外部評価結果を受け、運営推進会議に消防団や小学校関係者、郵便局長への参加協力を模索している。結果、新たに地区の郵便局長の地域代表としての参加につながっている。消防団については避難訓練への参加、小学校については、学習発表会等での交流により、互いに協力関係にあることが確認できる。利用者代表以外に他の利用者も参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護を受けている方のご家族様が、利用料を毎月支払いしてくれないため、生活支援課の担当者に相談して対応していただいている。包括支援センターに認知症サポーター養成講座開催について相談している。	「認知症何でも相談室」として指定を受けている他、「認知症サポーター養成講座」を地域住民を対象に開催するために、市の関係者や地域住民に働きかけ、その実現に向け奮闘中である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修は毎年行い、全職員が理解できるようにしている。転倒の危険がある入居者様に対しては、歩行時に介助したり、常に見守りしている。夜間は耳をすまして離床に気づけるようにしている。足の筋力が落ちて歩けなくならないように、足の運動や散歩を促している。	身体拘束廃止委員会を設立しており、毎年度身体拘束廃除に向けた研修を実施している。マニュアル等の関係書類が整備され、全職員が読み合わせしていることが捺印で確認できる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止についても毎年研修を行い、認知症のため落ち着かない人には、声掛けや落ち着くまで側で対応している。繰り返しの問いかけを無視せず、その都度、説明している。職員同士で話し合い虐待はもちろん不適切ケアについてもお互いに注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護を受けている方のご家族様が、利用料を滞納しているため、生活支援課の担当者に相談して対応していただいているが、支払いが滞っている他、連絡が取れないことも多いため地域福祉権利擁護事業の利用を考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に施設の見学をしていただき、契約時には運営規程や契約書・重要事項説明書を見ていただきながら、説明をして分からないことや疑問に思ったことはいつでも聞いてほしいと話している。また、改定時には事前に文書で改定のお知らせをして承諾を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月交換ノートをご家族様に送っており、ご意見やご要望を伺っている。また、入居者様との会話の中やご家族様の面会時なども伺っている。ご家族様がボランティア活動をされており、施設でも行いたいと要望があり、「おはなしコンサート」や「歌謡ショー」を行っていただいている。	事情により面会に来れない家族とは、交換ノートを活用して情報交換をしている。相談・苦情受付簿を活用することで、利用者や家族の些細な情報も職員が共有できるよう工夫している。家族の都合により、管理者へ24時間携帯メールで情報交換している事例も確認できる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や主任会議などに代表・管理者が出席し、また、職員との面接を行い意見や提案をすることができる。入居者様が変わることによる業務の変更など、何時でも話し合える雰囲気がある。設備の破損している所については報告すると、直ぐに対応していただいている。	法人を挙げての家族も大勢参加する敬老会、職員旅行等、親睦の大切さを重要視している。そのためか、職員の表情に穏やかさや優しさが感じられる。ホームの運営に関する要望や意見も素直に出し合える環境にあることがうかがえる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度があり、代表との面談時に希望を話すことができる。外部研修に参加させていただき、介護や認知症について知識を高めることができ、職員同士で共有している。産休や育休を取ることができ、子供を産み育てやすい環境である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修で移乗や移動の研修を行った時は、資料での説明だけでなく実践して行った。社内研修の資料は研修係が調べて作成し、講師として伝えている。外部研修には職員のレベルに合わせた研修に参加し、カンファレンス時などに報告して共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で事業所間の施設での研修を行い、それぞれの事業所の特徴を知ると共に、良い所を吸収するようにしている。サービスの質が向上するように積極的に研修に参加し、他職員に報告している。また、研修に参加することで同業者との意見交換が出来る。帰宅欲求や夜間不眠についてグループワークする研修に参加して、他施設でも同じことで悩み、同じような工夫をしていることを知ることができた。代表は「地域密着型介護事業者連絡会」の会長、「日本認知症グループホーム協会」の秋田県副支部長を務めております。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを全職員で共有し、不安や困っていることがあれば、側に寄り添い話を聴いている。今までの生活や好きな事など入居後に会話の中から把握し、職員間で共有して同じように関わることで安心して過ごしていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学をして施設の様子をみていただき生活の場を確認してもらっている。ご家族様の入居者様に対する思いや困っている事、要望を伺い、交換ノートや写真を毎月ご家族様に送り施設での様子を伝えることで「施設での様子が分かり安心できる」とコメントをいただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節の行事の時の食事を作る時は相談し、分からない所は教えていただいている。作業をやりたいという方の思いを受け止め、危なくないように継続していけるように側で声を掛けながら関わっている。作業に消極的な方にもやりやすい環境を整え、促すタイミングや声掛けを工夫して自然に作業を行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ボランティア活動をされているご家族様が「おはなしコンサート」や「歌謡ショー」を施設でも行ってくださり、母親や弟の葬式に出ることができるように支援して下さった。遠方に在住しているご家族様は、面会に来られた時に一緒に温泉に外泊している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	息子・娘・嫁・孫・ひ孫・姪・甥・いとこ等のご家族様が面会に来てくださった時ゆっくり過ごしていただけるように関わっている。また、外出や外泊の希望がある時は施設での様子を伝え、薬や着替えなどの必要な物を準備している。	利用者の教え子が面会に訪れ、懐かしい小学校時代の写真を持参してくれたり、かつての同僚が面会に訪れたりしていることが、居室に貼られた微笑ましい写真が物語っている。自宅周辺をドライブすると、利用者が道案内してくれるとのこと。共にカラオケを楽しんだ仲間がカラオケボランティアとしてホームを訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	通常はお互い良好ですが、時には思ったことをそのまま言ってしまう入居者様、私の強い入居者様、体調不良を訴え少し落ち込んでいる入居者様などそれぞれの関係性を考えて席を変えてみたり、間に入って会話しやすいようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後の入居者様やご家族様の不安を聞いて相談に乗り、お見舞いに行っている。特養に入所された時は、当施設での様子を伝え、面会にも行っている。退去後亡くなられた方のご家族様が「長い間お世話になりました。ありがとうございました。」と亡くなったこと教えて下さり、お礼の言葉をくださった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話から入居者様のやりたい事や希望を聞いて、職員間で話し合っている。毎日、入浴したいと希望があればできるだけ入浴できるようにし、母親のお墓参りに行きたい時はご家族様に伝えて行けるようにしている。昨年スタッフの自宅へぶどう狩りに出かけ、スタッフの義父との会話が楽しかったと今年も出かけた。	習字が得意だったことを家族から聞き、早速その利用者に働きかけたが、思うように漢字が書けなかったり、字列が曲がったりしていた利用者。今では、日課の歌の歌詞等を筆で堂々と書くようになり、ホームになくはない存在とのこと。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様やご家族様より生活歴や馴染みの暮らし方などを入居前にも聞いているが、入居後も聞き取りケアに活かすようにしている。これまでのサービス利用の経過等も介護支援専門員より聞いて、全職員が把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録に一日の様子を記録し、入居者様それぞれの過ごし方、心身の状態、できること、できないことなど職員間で共有している。その時々入居者様の様子を見て、作業やレクリエーションなどの声掛けをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様やご家族様より介護計画について要望や意見を伺い、医師からの指示も仰いでいる。カンファレンス時に介護計画や新たな課題について検討し意見やアイデアを出し合っている。	利用者本人や家族の意向を踏まえ、全職員から聞き取った内容を反映させることを前提に、ケアマネージャーが介護計画を作成している。直接聞き取りができない家族には交換ノートを送付し、返送いただくことで要望を把握する工夫も確認できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に一日の様子や介護計画に沿ったケアの実践、気づきを記録し、読むことで職員間で共有している。何時、どのような時に、どんな声掛けをすればいいのか記録を共有することで分かることがある。気づきやアイデアを書くノートを作り、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で歌と踊りのボランティア活動をしている「美唄会」が来訪して下さった。また、地域の小学校より学習発表会の予行に招待され鑑賞に出掛けた。入居者様のご家族様がボランティアで行って下さっている「おはなしコンサート」に地域の小学校の1・2年生を招待して、一緒に楽しむ予定を立てている。買いたい物がある時は、一緒にスーパーや本屋に買い物に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、ご家族様が希望している病院を継続してかかりつけ医院にし、事業所の協力医院をかかりつけ医院にしている方もいる。医師や薬剤師に入居者様の心身の状態を報告して適切な医療を受けられるようにしている。毎年、内科健診・歯科検診(希望者)を行いアドバイスをいただいている。	特別の事情を除き、ホーム利用前のかかりつけ医を引き続き利用することを基本としている。通院付添は医師との情報交換の重要性を考慮し、ホーム職員が担っているが、必要に応じて家族の同席をお願いする場合もあるとのこと。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者様の心身の状態を観察し、気づいたことは看護師に報告している。看護師はバイタル測定や様子観察して、職員に入居者様の状態や対応の仕方を説明し共有できるようにして、必要時は受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は、医療機関に事業所の情報を伝えている。お見舞いに行った際に入居者様の状態を医師や看護師に伺い、退院の時期や状態を想定して退院後の支援に繋げていけるように、関係づくりに努めている。入院した時はかかりつけ医に報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの外部研修に参加して、他職員にも報告して共有している。入居時や体調に変化がある時に、入居者様やご家族様に意向を伺っている。重度化した際はご家族様と相談し、かかりつけ医の意見を聞いて、事業所でする事を説明し、入居者様にとってどうしたらより良い終末ケアができるのかを話し合い、方針を決めている。	「看取りに対する指針」が整備され、外部研修を受講した職員による伝達研修を実施している。利用開始時及び必要に応じ、随時家族へ説明する態勢にあるが、今まで看取りをホームで実施した事例は無いとのこと。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や事故発生時の社内研修を行い、「緊急時対応マニュアル」という書籍を準備し、全職員がいつでも見ることができる場所に置いて活用している。救命救急の講習を3年ごとに受講し・他職員に報告し、実践力を身に付け、落ち着いて行動できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、1回は消防署からの指導を受けている。火災だけでなく地震想定での訓練もしている。停電に備えて発電機を備えている。地域の消防団も避難訓練に参加してくださり、避難時の連携訓練を行った。緊急時のファイルを作りいつでも確認ができるようにしている。代表が「防災士」に認定されている。	避難訓練に地域の消防団が10名以上参加してくれている。防災士である代表取締役が、参加した消防団員に対して、自ら車椅子の介助方法を伝授する等、ホーム側から消防団に対して災害時に協力できるよう尽力している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	やりたくないことを無理強いしないように気をつけ、自信をもってやりたい事・できる事を行えるようにしている。出来ない、失敗したという思いをできるだけさせないように関わっている。	本人のできないことを把握し、さりげなく声掛けし、別の事をやっていただくとのこと。「こんな人」と決めつけずに、どのように伝えるか伝わるかを常に個別に考え対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ飲み物は何が飲みたいのか伺い、誕生日には好きな物、食べたい物を聞いて準備している。会話の中からやりたい事やできる事を見つけて、やれることができるように環境を整えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で休みたい方は、なぜ休みたいのかを察するようにして、関わりを考えている。事業所の日課に添って行動される方には、感謝の気持ちを伝え、体調が悪くても頑張っている時は少し休むように声掛けしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	定期的に事業所に来訪して下さる床屋にやっていただいている方や、近所の床屋に希望時に掛けている方がいる。外出時は着て行く服と一緒に選り替えている。男性入居者様は毎日髭剃りの声掛けをして、剃り残しを介助している。毎年、ひな祭りに化粧部員の方がメイクアップのボランティアに来てくださり、きれいに化粧をしていただき喜ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいのか、何を作るのか話しながら食事作りの手伝いをしていただいている。味付けをお願いし皆で味見をして、「少し塩が足りないな」など話して味を決めてくれる。盛り付けや、お茶入れ、配膳、下膳等それぞれの入居者様ができる事をやっていただいている。	誕生日はその方が主人公、何が食べたいかを聞き取り、できるだけその要望に応じている。行事のメニューも前もって利用者の希望をとっている。当日の昼食は、とても食べやすくおいしい内容でした。前回の外部評価結果を踏まえ、調理研修に職員を派遣している他、利用者個々の健康状態に合わせ、保健師のアドバイスを受けられる体制にある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	胃が悪い方、歯がない方にはお粥や刻みで提供し、ご飯の上に置くとおかずを食べられる方には丼のようにして提供している。嫌いなおかずの時は代替えを準備して提供している。水分量が少ない方には、好きな物を聞いたりこまめに声掛けをしている。夜間に水を飲みたい方には、ペットボトルに水を入れて寝る前に渡している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、磨き残しのある方にはブラッシングの介助している。また、側で磨いていない所を声掛けして、自分でやっていただいている。毎年、希望者に歯科健診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パットを利用している方の排泄の間隔を把握し、汚れる前にトイレに行き排泄できるようにしている。自立してトイレに行っているが、たまにパンツを汚してしまう方は、何時汚すことが多いのかを把握して声掛けをしている。車椅子を使用している方はトイレで排泄をしていけるように、足の筋力が落ちないように支援している。	退院してからベット上の生活が主で、パット使用だった利用者。職員から自立排泄の可能性が提案され、失敗することへの不安を少しずつ取り除くことで、日中は普通の下着で過ごせるまでになり、本人の自信につながった例が確認できる。現在、夜間はパットを使用しているが、失敗することはないとのこと。ポータブルを夜間設置している利用者も、不安軽減が目的で、実際使用することはない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品を使用している。便秘しやすい方は起床時に冷水を飲んでいただいたり、オリゴ糖を飲み物にいれたり、腹部マッサージをしている。体操や散歩などを毎日の日課として行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴支援はほぼ毎日、主に午前中に行っているが、午後浴もしている。受診の前日や希望時に入れるようにしている。毎日、入浴したい方にも対応し、一人で入浴したい方には時々声を掛けながら危なくないように見守りしている。	脱衣場だけにとどまらず、浴室も含め10月に入るとファンヒーターで温めており、快適に入浴できるよう配慮している。入浴は利用者のお話の中から、思いや人柄を理解できる貴重な時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室には使い慣れた寝具など、自宅で使っていた物を持って来ていただいている。季節や入居者様に合わせて掛物を調整している。冬は湯たんぽや電気毛布などを使用して暖かくして休めるようにしている。また、ソファが数個置かれていて、好きな所で休むことができる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての社内研修を行っている。薬の準備をする時は2人で確認しながら行い、服用前にもう一度確認してから渡し、服用したことを確認している。状態の変化により薬が変更になった時は全職員に申し送りし、医師や薬剤師より副作用や用法の説明を受けて、状態を観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑の作業や花壇の水やりを行い、書道をやっていた方からは行事の横断幕や誕生日のお祝いを書いていただき、大正琴やオルガンを弾いていただきそれに合わせて歌を唄っている。季節の山菜や野菜などを昔取りに行った話を聞いて食べている。裁縫が得意な方からは雑巾等を縫ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ラベンダー園、公民館まつり、小学校の学習発表会、紅葉狩りなどの観賞に出掛けている。食べたい物を伺い外食に出掛けている。母親や弟様が亡くなった時に葬式に出られた方がおり、お盆や正月に外出される方もいる。遠方に在住しているご家族様と温泉に泊まれた方もいる。	法人全体で車の手配を調整することで、車での外出の便宜を向上させている。法人全体で企画する敬老会には多くの家族も参加しており、ホテルで盛大に行われている。外食人気のNO1は回転寿司とのこと。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所では金銭管理はしていませんが、お金を手元に持っていることで安心される入居者様もいる。欲しい物がある時に一緒に買い物に出かけて、自分で支払されてる。欲しい物を職員に頼んで、後で支払う時もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や友人より手紙が届き、電話をかけたいと希望がありかけている。面会に来てくれた妹にお礼のハガキを書いた方とポストまで歩いて出しに行った。遠方に在住している息子様より電話があり、話している。友人よりハガキや手紙が届き返事を書いて出し、年賀状を出した方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をして、消毒・消臭を行い、温度・湿度・空調管理に気をつけている。日差しが強い時はカーテンを引き、季節の花を飾り、季節ごとに貼り絵などを作成して貼り替えている。行事の写真やホームだよりを展示していつでも見られるようにしている。ソファを多く置いて、どこでも座り休めるようにしている。	縫製工場を改築したホームとのことで、共用空間であるホールや廊下、食堂がうらやましい程に広い。特に多目的ホールについては、ボランティアによる演芸発表等があっても余裕のスペースが十分に確保できる程である。気になる臭い等も一切感じられない。湿度により感じる温度にかなりの差があることから常に空調管理に気を遣っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ソファを多く置いているので好きな所に座り、一人で座っていたり、2~3人で座り会話していることもある。食席はその時々の入居者様の関係を見て、了解を得て替えている。おやつ時は好きな場所で食べている。ユニットがつながっているので行き来している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使っていた物を持ってきていただき、馴染みのある場所に行っている。面会時にご家族様と撮った写真や、行事の写真、ぬり絵の作品など見やすい所に貼っている。教え子が面会に来てくださり、その当時の学級写真をコピーした物を持って来てくれ、居室に貼っている方がいる。	各居室には、利用者本人が写った写真や、本人が作成した作品が数多く掲示されている。面会に訪問した昔の同僚との写真は特に印象的である。家具は持込みを基本としているが、手すりのあるベットを希望される方にはホームのベットを提供している。写真を掲示することで不安を感じる方等、個別の対応に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりに掴まり、安全に安心して歩行できるようにしている。シルバーカーや車椅子を使用している方が通りやすいように通り道には物を置かないように注意している。居室には入居者様の同意を得て表札をつけていて、確認してから入る方もいる。トイレが分かるように表示している。食席にはこだわりがある方や分からない方には名前を貼って分かるようにしている。タンスの引き出しに了解を得て、入れているものの名前を明記して自分で片づけられるようにしている。		